

日本－デンマーク持続的リン利用ワークショップ

2017年10月31日（火）

13:30 – 17:30

TKP赤坂駅カンファレンスセンターホール14A
(東京都港区赤坂2-14-27国際新赤坂ビル東館14階)

参加費

リン資源リサイクル推進協議会会員無料、非会員1,000円（資料代）



参加頂くには事前登録が必要です。登録方法は最後の頁をご覧ください。

主催：リン資源リサイクル推進協議会(事務局:(一社)日本有機資源協会) デンマーク王国大使館

協賛：早稲田大学総合研究機構リンアトラス研究所、(一社)日本有機資源協会

後援：無機マテリアル学会

日本ーデンマーク持続的リン利用ワークショップ

講演は英語です。日本語の資料を配布予定です。

主催：リン資源リサイクル推進協議会(事務局:(一社)日本有機資源協会)、デンマーク王国大使館
協賛：早稲田大学総合研究機構リンアトラス研究所、(一社)日本有機資源協会
後援：無機マテリアル学会

プログラム

1. 挨拶 (13:30~13:40)

駐日デンマーク王国大使 フレディ・スヴェイネ氏



2. 講演

(1) デンマークの資源戦略に関する政策動向・プロセス (13:40~14:20)

デンマーク環境保護庁 循環型経済・廃棄物部 副部長
アンネ・エリザベス・カムストロップ氏

当講演では、デンマークにおける廃棄物処理及び資源効率に関わる施策について紹介します。また、デンマーク政府による循環型経済(circular economy)の実現に向けた取組みについても紹介します。デンマークでは、国の廃棄物管理計画である「The Resource Strategy - Denmark without Waste(資源戦略ー廃棄物のないデンマーク)」が、リサイクルを推進し焼却処分の低減化を目指す上で重要な戦略になっています。その中では、ガラス、プラスチック、金属、有機性廃棄物、紙、ダンボール、木材など7項目の廃棄物の50%以上をリサイクルすることを、2022年までの目標としています。この戦略の実施期間は2013~18年で、実現に向けて既に多くの施策が展開されています。2015年には、食品廃棄物と容器包装をターゲットとした廃棄物削減戦略「Denmark without Waste (廃棄物のないデンマーク2)」も策定されています。



(2)日本における食品リサイクル及び食品ロスに関する取組 (14:20~14:50)

環境省 環境再生・資源循環局リサイクル推進室 室長補佐
寺井 徹氏

環境省では、食品リサイクル法に基づいて食品廃棄物のリサイクルの推進に取り組んでいます。また、近年、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)等も踏まえ、食品ロスの削減にも取り組んでいます。これらの取組は、結果的にリンのリサイクルの推進や食料生産に伴うリンの需要量の低減にもつながるものでもあります。当講演では、これまでの日本国内における食品リサイクル及び食品ロスに関する取組の状況及び現状と課題について紹介します。



— 休憩15分間 (14:50~15:05) —

(3) 排水及び下水汚泥からのリンリサイクルに関する技術動向 (15:05~15:45)

デンマーク環境保護庁 循環型経済・廃棄物部 獣医
リンダ・バゲ氏

当講演では、デンマークにおける下水汚泥の管理及び活用方法について紹介します。重金属や有害物質に関する規制値や現在検討中の規制改正のねらいや変更点などについても紹介します。また、現在「The Resource Strategy – Denmark without Waste」の中で取組まれているリン回収の戦略に関しても、①下水汚泥から80%のリン回収を目指す目標をいかにして実現するか、②下水汚泥焼却からのリン回収と肥料利用および③下水汚泥の農業利用に焦点を当て紹介します。



(4) 持続的リン利用のためのPイノベーション (15:45~16:15)

早稲田大学総合研究機構リンアトラス研究所 客員教授・大阪大学名誉教授
大竹久夫氏

1.27億の日本人が生きていくためには、毎年4.6万トンのリンが絶対的に必要です。リンはまた電子部品、自動車、医薬品や食品等の製造に必要な「産業の栄養素」でもあります。本講演では「リンのない」日本でリンの自給体制の構築を目指し、国内の未利用リン資源から原料リンを調達し食料生産を支えるとともに、黄燐などの高純度リン素材と高機能性リン製品の国内生産をめざすPイノベーションとバリューチェーンについて解説します。



(5) 食料とバーチャルリン (16:15~16:45)

東北大学大学院環境科学研究科 教授
松八重一代氏

世界人口の増大は食糧需要の増大を引き起こし、食糧生産に必要なリン資源の需要増大を引き起こすことが予想されます。特に中国やインドなど人口が多く経済発展の著しい国における食糧消費構造の変化は、リン資源の消費に大きなインパクトをもたらすと考えられます。本講演では、食糧消費構造の変化がリン資源需要にどのような影響をもたらすのか、バーチャルリンという指標を用いて推計した結果に基づき、アジアにおける未利用リン資源活用の重要性について検証をいたします。



(6) 下水消化汚泥からのリン回収 (16:45~17:15)

水ing株式会社 技術開発統括 研究開発センター 副参事
萩野隆生氏

日本の下水処理場で発生する消化汚泥中のリンの形態は、水処理系で使用される無機凝集剤の種類と添加率によって変化しますが、約30%が溶解性リン、約40%がStruvite、残り約30%がその他固形物である。この下水消化汚泥から低コストの晶析法を採用し、リン回収率をより高くするためには、回収対象は溶解性リンだけではなく、消化槽で既に固形粒子化されたStruviteやその他固形物を回収対象に含める必要がある。当講演では、2012年より2017年現在まで神戸市東灘下水処理場で稼働中のリン回収装置に関して、消化汚泥中の溶解性リンと既存固形物からリンを回収している取組について紹介します。





JAPAN
DENMARK
日本・デンマーク 百五十年
150 YEARS
2017

TKP赤坂駅カンファレンスセンターホール14A

(東京都港区赤坂2-14-27 国際新赤坂ビル東館14F)

<http://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-akasaka/access/>



参加事前登録

ご所属、お名前および会員／非会員を明記して下記へ申し込みください。

リン資源リサイクル推進協議会 事務局

E-mail : prpc@jora.jp FAX : 03-3297-5619